

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070600307		
法人名	有限会社 深英会		
事業所名	グループホーム サンフラワー ①ユニット		
所在地	群馬県沼田市新町452-1		
自己評価作成日	平成26年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お客様の為、気付く優しさ、悔いなき言動、笑い合える信頼関係、みんなで築こうサンフラワーの運営理念を掲げ、社長、管理者を始め職員が理念を理解し実践に取り組んでいる。今年、改正された悔いなき言動とは前の悔いなき言動と共ない行動だけではなく認知症の方のその人らしさを尊重した言葉かけも交え言動と改正しました。又、みんなで築こう、サンフラワーのみんなの中には利用者様、御家族様、職員だけではなく、地域住民やボランティア等広い意味が含まれており地域にあるサンフラワーを目指す為努力している。又、月1回の勉強会の実施も行い、認知症に対する基礎的な知識の再確認やテーマを決め行い、職員の教育に力を入れたり、外部研修や資格取得に対し積極的に支援し、日々の介護サービス向上に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を具現化するための説明や過去に取り組んだ分解図が記載された「職員規約」を各職員に配布し、利用者も参加する朝の申し送り時に唱和している。ケア内容に疑問が生じた時は、理念の振り返りを行い、在り方を話し合い全ての職員が理念を基にサービス提供できるよう努めている。地域との交流においては、どんど焼きに参加し地域の人達と歓談したり、子供神輿が事業所を訪れ子供たちとの触れ合いを楽しんだりしている。今年度は、新たに夏のバーベキューに地域の人達を招待し、秋の焼き芋会にはチラシを区内に配布して、グランドゴルフ終了後に区長が呼びかけて多数の人達が参加している。今後は、クリスマス会に地域の子どもたちを招待するなど地域との交流を増やしていくと共に、地域の人達が相談できる事業所運営を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で理念を唱和し、月2回のユニット内での会議を通し再確認し話し合い共有に努めている。各ユニット内で目標を決め実現を目指し取り組んでいる	理念を具現化するための「職員規約」を職員に配布し、利用者も参加し、毎朝唱和している。また、ケア内容に疑問が生じた時は、会議で理念の振り返りを行い在り方を話し合い、統一したケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番になっている。事業所の行事に(BBQ)において地域住民を招待したり、地域行事への参加をしている	どんど焼きに参加したり、子供神輿が立ち寄りたりしている。今年度新たに、夏のバーベキュー、秋の焼き芋会のチラシを区内に配り、区長が呼びかけて多数の人達が参加している。今後はクリスマス会に地域の子どもたちを招待するなど、地域との交流を増やしていくと共に、地域の人達が相談できる事業所運営を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を通じて地域の方への情報提供したり、支援の方法や実践の報告を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、家族には各ユニット毎に案内している。利用者状況の報告やご家族様にも分かり易いテーマを決め利用者の様子、行動等の取り組みについての報告、ご家族より意見を聞いている	「認知症対応型共同生活介護について」等の議題を毎回設け、偶数月に開催している。会議は、市職員、区長、民生委員、家族代表、在宅介護支援センター職員で構成しているが、特に家族の参加が少ない状況である。	会議の構成員全員が参加できるように工夫すると共に、外部評価における一連の取り組みを説明・報告し、そこでの意見等を運営に反映されるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生保の利用者の相談や沼田祭りの時の市役所への車両乗り入れ許可を得たり等、協力関係を築いている。	更新書類や事故報告書を持参した際、介護保険制度の情報交換を行っている。また、浴槽等の施設整備助成についての協議、市からの生活保護受給者の入居についての受け入れに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、非常口の施錠については事故の無い様安全に配慮し開放する時間を決めていく。共通な言葉かけ等気を付けている。各ユニットにマニュアルが置いてある	新規採用職員には「高齢者虐待マニュアル」を配布し、身体拘束について勉強会を開催している。また、2階から玄関へ降りる階段は暗唱番号で開く扉に施錠をしているが、3か所の非常口は時間を決め解錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各ユニットに虐待防止マニュアルがある。マニュアル把握し、不適切なケア等について会議で学びあい虐待が見過ごされ無い様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したり、勉強会で学び理解し必要な場合、話し合いの場を設け支援できる様心掛けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をし同意を得ている。疑問不明な点がある場合は随時対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の苦情ノートの作成や、意見箱の設置。家族が来られた際に直接話を聞いたりしている。面会の少ない利用者家族には電話にて報告している	行事の写真と一言付記した「おたより」と「ケース記録」のコピーを利用料請求書に同封し、事業内容を知ってもらい、面会時に利用者の状況を伝え、家族と職員との壁を無くし、何でも言えるよう努めている。また、利用者・家族の苦情等は、「相談・苦情処理記録」に内容及びその対応策を記録している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のリーダー会議を通して反映させる様になっている	無記名で自由に意見が言える「業務改善箱」を設置し、職員の提案を積極的に吸い上げている。「車輛管理体制について」「サンフワワーの特色付けについて」「入浴のあり方について」等の意見や提案は、社長自らが目を通し、具体化させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見箱を設置し職員の自発的改善を促し、現実可能な物は取り入れる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人やベテラン職員それぞれに合った研修を組み込むようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会主催の交流会を通じて意見交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃のケアの中で常に要望に耳を傾け受診出来る様に相談援助を行い信頼関係を築いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	1番困られていることや求められていることを細かく聞き、支援の方法を一緒に考えるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様本人や家族が希望していることを受け入れ支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中に出来る事を取り入れ清掃や調理等を一緒に行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連携を取り無理の無い様、面会外出受診などをお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の人、場所、地域など馴染みの関係を把握し関係継続に努めている。以前入居していた馴染みのお仲間や、以前勤めていた職員が1ヶ月に1回面会に来ている。	地元の祭り見物、友人の頻繁な訪問、携帯電話で友達との会話、家族と友人宅への訪問、美容院の利用、墓参り、職員と食材や晩酌のつまみを買いに行きながらの実家訪問など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を通じて孤立する利用者様が居ないように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、いつでも相談できる様 整えている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの訴えや言動行動、生活歴等により、希望意向の把握に努めている。本人から把握が困難な時には、家族に確認検討している	職員は、日常の会話やレクリエーションを通し、或いは1対1になれる通院などの機会に、利用者の思いや意向の把握に努めている。意思表示の難しい人は、反応や態度などのサインを見落とさないよう努め、訴えを掘り下げて真意を把握するよう努め、どのように過ごしたいかケア会議で話し合い、一人ひとり楽しく過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、アセスメントを行い利用者やご家族様に話を伺い把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で利用者様の出来る事、出来ない事の見極めに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気付いた事を報告、相談をし会議等で個別に支援の方法を話し合っている	介護計画の素案は、6ヶ月毎のモニタリングに基づき各リーダーが作成し、家族には1ヶ月毎のケアチェック表を渡し意見を聞き、毎月開催するケア会議を経て、介護支援専門員が素案を修正している。	毎月モニタリングを行うと共に、介護計画の支援内容とモニタリング内容が整合するよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録、ケアチェック表、バイタル表など個々に記入し情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、御家族様のご希望により、外出、外泊買い物、床屋など支援に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内でのバーベQや沼田祭り、体験学習の中学生との交流により利用者様が楽しく生活できる様に支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、御家族様の希望するかかりつけ医への受診を第一に尊重し他の病院や緊急の場合等御家族と連携し医療機関にて適切な受診を出来る様にしている。月2回の往診体制も取り入れている	かかりつけ医の受診は本人・家族の意向に沿って対応し、家族と共に職員が付き添う場合や送迎だけを行う場合もある。家族の希望により職員が対応する場合は、受診結果を「おたより」と「ケース記録」に記載し、毎月の利用料請求書に同封して家族との情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態変化を記録に残すと共に、適切な受診が出来る様支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係と連携を取り情報の交換をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診体制を取り入れ利用者様、御家族様に希望を聞いて、出来る限り希望に添える様努めている	協力医と相談し「ターミナルケアマニュアル」を作成し、重度化に応じ「看取介護計画兼同意書」を家族と取り交わし、家族・職員と話し合いを繰り返し、重度化や終末期に向けたケアに取り組んでい。また、看取り後の勉強会で振り返りを行い、実践につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けており、急変や事故発生に備えてマニュアルが各ユニットに置かれている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4ヶ月に1回夜勤者や地域の方も含め避難訓練を行っている。防火管理者の取得も増えている	消防署の指導を受けた訓練の他、夜間を想定した訓練と総合の自主訓練を年3回行っている。区長にお願いし近隣の人達の参加を呼び掛けてもらっているが、参加にはいたっていない。	近隣の人達の参加とその際の体制づくりを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定をせず傾聴し受容する。一人一人個性に合った言葉使い、解り易く失礼のない言葉掛けに心掛けている	理念の「悔いなき行動」を「悔いなき言動」に改め、行動と共に言葉でも傷つけないケアを心がけている。利用者の言動を否定せず傾聴し、受容すると共に、命令形の言葉「～してください」ではなく、利用者本人の意思で選択できるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を伺い選択出来る様な声掛け、場面作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意見を優先し一人一人に合ったペースに応じて生活出来る様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回理容師さんの訪問。希望する理容師さんに通われている。衣類等清潔に保てる様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理を手伝って頂いたり、月に1度利用者様の希望を聞き楽しく食事出来る様支援している。季節の物を取り入れたり、検査者と一緒に楽しみながら食事をしている	食材の買い物は利用者も一緒に行き、何が食べたいか聞き、系列施設の栄養士が1ヶ月毎に作成する献立に反映している。月末は特別食の日として利用者が話し合いカレーやネグトロ丼など食べたいものを提供している。また、利用者にはじゃがいもの皮むきやお茶出し・味見を手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べられる量や好き嫌いを把握し栄養を考え支援している。食事量、水分量を記録に残し、一人一人の状態を把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、介助等を行い一人一人合った支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録して、個々の排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けての声掛け、誘導を行っている	排泄状況は日々の「経過記録」に記載し、オムツやパットを使用している人は食前・食後などに誘導している。新人職員には、口頭で各々の傾向を教えている。	排泄記録をさらに活用し、新人職員でも適切なトイレ誘導ができるよう期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握して食事や軽い運動などで自然排泄が出来る様に心掛けている。どうしても困難な場合は主治医と相談し下剤の使用をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思を優先して支援している。体調不良などで何日も入浴できない方に対しては清拭を行っている。入浴剤を使用したり、冬至の時はゆず湯を用意し入浴して頂く。	入浴は週2回を基本に、時間は好きな時に入れるよう実施している。入浴を嫌がる人には、「ひげそりは風呂でしましょう」などと言葉を変え促すなど、入浴後の気持ちの良さを味わうよう支援している。また、羞恥心に配慮し、浴室では職員1人で対応するようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムで昼寝や就寝時間を決定してもらっている。夜間不眠の方に対しては、声掛けやスタッフの対応により、安心して頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成し、受診時にはスタッフで情報共有し、飲み残し、飲み忘れが無いか確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様が得意としている分野などをスタッフが把握し、それぞれに合わせて活力ある生活が過ごせる様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物やドライブなどは、その日の天候や体調により判断し支援している。一人一人のニーズに答えて買物、ドライブ、外散歩、イベント、お茶会等行っている。又、御家族様と協力し、外食や自宅へ外出出来る様支援している。	日常的な散歩や食材の買い物の他、「レクリエーション月間予定表」「行事・イベント計画表」により、外出や外でのお茶会が行われている。その他洋服や晩酌のつまみの買い物など個人の希望による買い物にも出かけている。	日常的な散歩や買い物についても記録されるよう期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1ヶ月に小遣いを決め、お金の所持を一緒に買い物に行きます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月の近況をお便りに写真を付けてお知らせしたり、電話はお客様のニーズに答えて行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が混乱しない様、四季の飾りをして居心地の良い工夫をしたり、イベント、ドライブなどの写真を貼っている	5ユニット共用の相談室には、応接セットを配置し、ジュースの自販機や新聞・灰皿があり、利用者同士や来訪者の歓談の場となっている。また、毎日の清掃とは別に月1回大掃除を行い、天井や蛍光灯を掃除している。食堂には季節感を取り入れたクリスマスツリーを飾るなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、ソファにてお仲間と一緒に楽しそうに会話されております		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドを使用したり、マットに布団を敷いたりとその方に合ったケアを行っている。使い慣れたベッドやタンスや小物などが持ち込まれたり、写真など飾っている。入居者と一緒に居室清掃を行ったりと居心地良く過ごせる様工夫をしてる	居室入口にはドアが開いていても室内が見られないよう、利用者が希望するのれんが掛けてある。タンスや縫いぐるみの持ち込みの他、寝た時に見られる家族の写真がベッド脇に置かれたり、誕生祝いの色紙が華やかさを添えたりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が使いやすい様ベッドやタンスの設置。位置は足元が危なくないかを配っております		